

緑山バイオマス材生産モデル事業の概要

緑山バイオマス材生産モデル事業(事業イメージ)

市有林において、早生樹を活用した低コスト、15年サイクルによる循環的なバイオマス生産に着手（R1～）

早生樹が15～20年で成長する
前提で、市有林（緑山:270ha）
を段階的に早生樹へ移行



15年間サイクルで伐採、再造林
を目標とする実証

目標：270ha ÷ 15年 = 18ha/年

+

適宜、柔軟な最適手法の検討

- 例・植林密度を変化
- ・一部を用材エリア施業
 - ・他樹種の植林、混合育成
 - ・施肥の実施
 - ・私有林等、他地域への展開
 - ・森林機能の最大発揮の施業・
保育手法検討 ほか



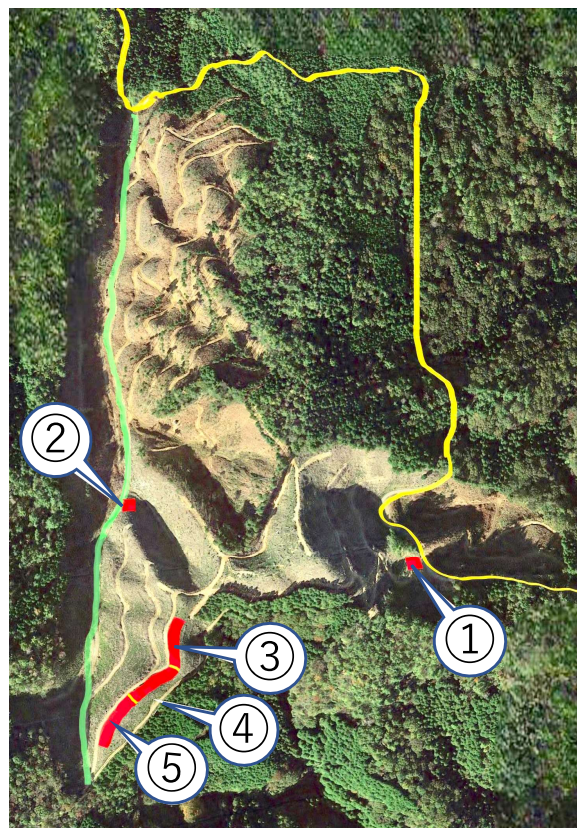
市有林（緑山:270ha）

1年目 (18ha)	2年目 (18ha)	3年目 (18ha)
6年目 (18ha)	5年目 (18ha)	4年目 (18ha)
7年目 (18ha)	8年目 (18ha)	9年目 (18ha)
12年目 (18ha)	11年目 (18ha)	10年目 (18ha)
13年目 (18ha)	14年目 (18ha)	15年目 (18ha)

毎年段階的に早生樹へ移行

出典：第1回周南市木質バイオマス材利活用推進協議会資料より

緑山バイオマス材生産モデル事業のプロット調査概要



令和2年度にコウヨウザンを造林した計5地点でプロット調査を実施。
令和3年度、4年度の平均樹高等を比較した。

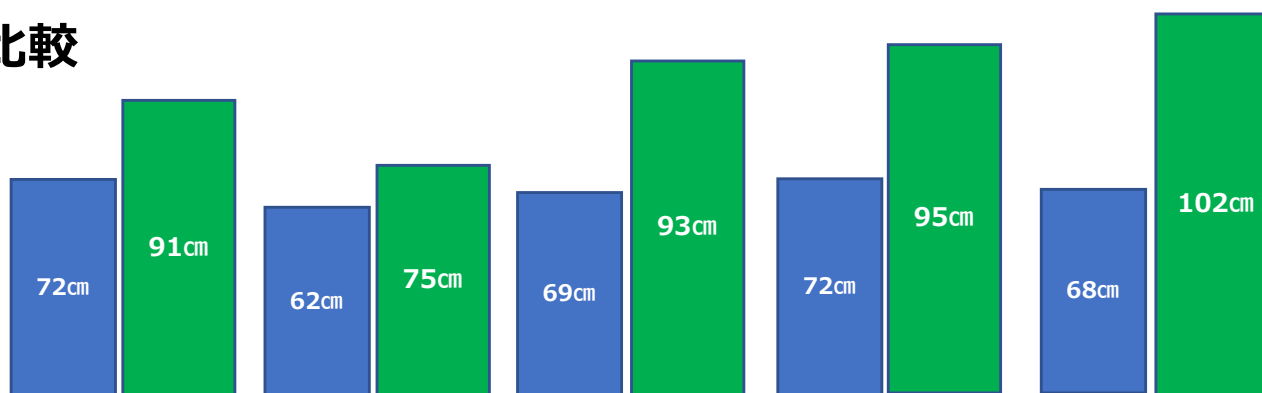
緑山バイオマス材生産モデル事業のプロット調査概要

A R3年度・R4年度平均樹高比較

R3年度



R4年度



調査地 年度	プロット①	プロット②	プロット③	プロット④	プロット⑤
	1,500本植	1,500本植	1,500本植	1,000本植	2,000本植
令和3年度	0%	17%	1%	5%	7%
令和4年度	0%	0%	1%	5%	0%
令和3年度	0%	0%	0%	0%	0%
令和4年度	0%	0%	0%	0%	0%

B

枯死率比較

C

食害被害